

Boat Tug Tournament

全日本選手権大会

(競技規則)



目次

1. 参加者の遵守事項。	3p
2. 選手について。	3p
3. 賞について。	3p
4. 競技について。	4p
4-1 競技概要。(概念図)	4p
4-2 競技の種類。	4p
4-3 選手への通告。	4p
4-4 競技水域及び競技指示の変更。	4p
4-5 競技規約。	4p
1. 出場資格。	4p
2. 競技内容。	5p
(1) 予選。	5p
(2) トーナメント (決勝)。	5p
(3) 競技要領。	5p
①スタート。(Start)	
②タグ。(Tug)	
③フィニッシュ。(Finish)	
(4) 競技判定。	6p
①予選	
②トーナメント決勝	
(5) 抗議	6p
(6) シード権	6p
5. 事前タグトライアル (練習)。	7p

1. 参加者の遵守事項。

参加者は次の事項を順守しなければならない。

- : 参加者は会場内に於いては、主催者の指示に従うこと。
- : 大会の会場における肖像権は、主催者側が所有する。
- : 新聞、雑誌その他の取材は、主催者の指示に従うこと。
- : 主催者は会場内で参加者が起こすトラブル、参加者が巻き込まれたトラブルには一切責任を持たない。
- : 競技終了後は主催者の指示に従い、速やかに陸上に移動すること。
- : 主催者は天候等不慮の理由でコースを変更、または競技を延期及び中止をすることができる。中止の場合は中止以前の記録により順位を決定する。
- : 主催者は競技の成立について一切の権限を有する。
- : 大会運営に支障があると思われる事態が発生した場合は、参加チームメンバーは速やかに主催者まで報告する義務がある。

2. 選手について。

- : 選手は本人の問診票及び（誓約書）を提出すること。
- : 選手が18歳未満の場合は親（保護者）の参加同意書を必要とする。
- : 申込書にはチーム名及び選手名を必ず明記のこと。また、記載事項に変更があった場合には速やかに主催者まで報告をすること。
- : 主催者が必要と認められた場合には、選手に医師の診断を受けさせる場合がある。また、診断により競技不相当と認められた選手は、速やかに選手の交代を申し出ること。
- : 選手は必ず健康保険証を持参すること。コピーでも可能である。
- : 選手は競技前の選手ミーティングへの出席の義務がある。
- : 選手は泳ぐことができないといけない。
- : 選手はヘルメット及びライフジャケットを着用しなければならない。
- : 選手は競技規則を順守し、安全に協議しなければならない。

3. 賞について。

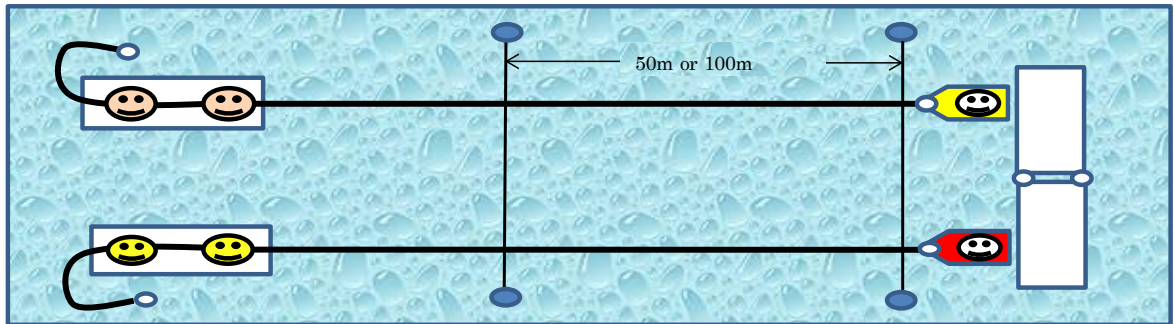
- : 競技に於いて優勝、準優勝、3位を表彰する。以下8位まで賞品を授与する。
- : 他に特別賞として表彰する場合がある。

4. 競技について。

4-1 競技概要。(概念図)

: フロート上から規定された区間を1名乗船の(ボート)を素早く引く競技。

: 競技はマッチレースのトーナメント方式で実施する。



4-2 競技の種類。

1. 50メートル競技。予選は規定区間のタイムを計測し、トーナメントの順番を決定し、マッチレースにて競技を実施する。
2. 100メートル競技。予選は規定区間のタイムを計測し、トーナメントの順番を決定し、マッチレースにて競技を実施する。

但し、競技水面の環境を考慮し、主催者が競技の規定区間を新規設定できる。

4-3 選手への通告。

: 選手への通告は、場内放送及び公式掲示板(本部前)により通告する。

4-4 競技水域及び競技指示の変更。

: 競技水域及び競技指示は、競技確定会議により変更する場合がある。

(競技確定会議は、大会実行役員の内より組織する。)

4-5 競技規約。

1. 出場資格。

: 主催者に提出した書類審査に合格した選手とする。

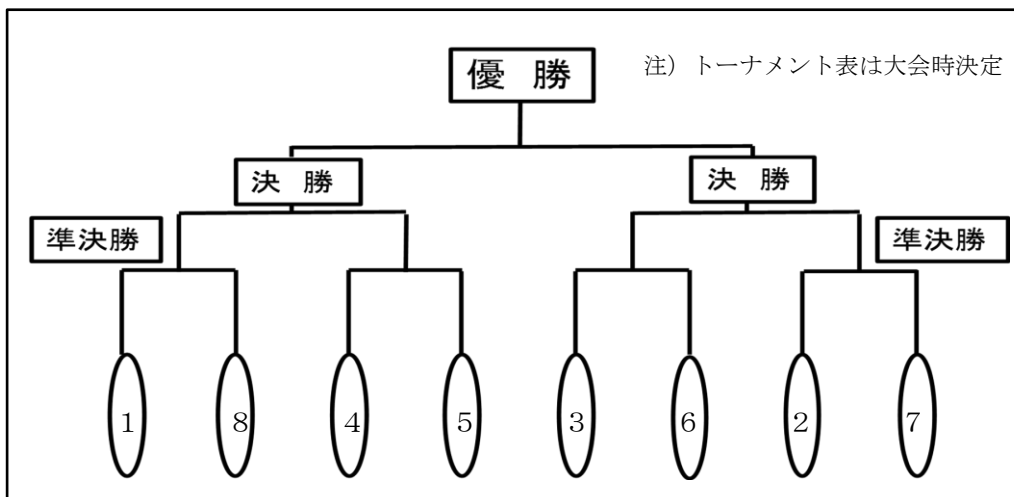
: 選手は大会に於ける出場チーム以外のチームに参加することはできない。

: チーム3名の合計総重量(装備着衣含め)は240kgを超えてはならない。

2. 競技内容。

(1) 予選。

- : 選手はヘルメット、グローブ、ライフジャケット、ゼッケンを着用し、競技本部の指示に従う。
- : 予選は規定区間のタイムを計測し、トーナメントの順番を決定する。
- : トーナメントの順番及び出場枠は大会実行役員会により決定する。
- : トーナメントの順番は本部前の公式掲示板により告知する。



(2) トーナメント (決勝)。

- : 競技はマッチレースのトーナメント方式で実施する。
- : 準決勝後に3位決定戦は実施せず、2チームを3位とする。

(3) 競技要領。

① スタート。(Start)

- : スタート前、曳かれボートは固定され、チームメンバーの内1名が乗船する。乗船者の重量は問わない。
- : 乗船者はタグロープの付いているバーを持ち、スタート位置で待機する。
- : 引手はフロート上に於いて、立姿勢により規定位置のタグロープを持つ。
- : スタートは競技実行委員の笛等の合図によりスタートする。

② タグ。(Tug)

- : タグ中に乗船者は体重移動や姿勢の変化をすることができる。
- : タグ中に乗船者及び引手が、落水やロープを離した場合は失格となる。
- : 乗船者は常にバーを持ち、ロープを手繰り寄せる事は出来ない。
- : 相手ボートと衝突した場合は、後続のボートが失格になる場合がある。
- : コースを逸れて相手ボートの針路を妨害した場合は失格となる。

③フィニッシュ。(Finish)

- : 曳かれボートの船首がフィニッシュラインを超えた時点で、フィニッシュとなる。その後、引手は速やかにタグロープを緩める。
- : 規定時間内（大会時決定）にフィニッシュしない場合は失格となる。

(4) 競技判定。

①予選

- : 計測の為の競技は完走 2 回までとし、いずれか早いタイムを採用する。
- : 計測時のフィニッシュタイムは、曳かれボートの一部がフィニッシュラインを超えた時とする。
- : 同タイムの場合は、2 回目のタイムを比較して決定する。さらに同タイムの場合は、乗船者体重の重い方を優先とする。

②トーナメント決勝

- : チーム登録内の乗船者及び引手は入れ替わることができるが、チーム登録外の選手と入れ替わる事は出来ない。
- : 3 回を超える場内放送に於いても、出場準備が出来ない場合は、リタイアと見無し相手チームの不戦勝となる。
- : フライング引きを二度行くと失格になる。
- : 同時フィニッシュの場合は乗船者体重の重い方を勝者とする。

(5) 抗議

- : 抗議申し立ては、競技近くにいる競技実行委員に意志を示さなければならない。この連絡により抗議申し立ての権利が与えられ、競技終了後 20 分以内に書面と抗議費用（一抗議につき 1 万円）を大会本部へ提出しなければならない。その時、この競技の勝敗は参考とされ、審議を待つ。
- : 大会実行役員会で審議し、決定した判定には抗議は認めない。
- : 抗議が認められた場合は、抗議費用は返還され、認められなかった場合は主催者の決算へ繰り入れられる。

5. 事前タグトライアル（練習）。

- : 事前に競技の練習をする場合は、大会本部に申し込み許可を得る。
- : 練習にはヘルメット、ライフジャケット、グローブを用意し、指示に従う。

(附則-1)

：本規則の解釈及び細部規定は、大会実行役員会により決定する。

(附則-2)

：本競技規則は 2016 年 8 月の「2016 年ソーラー・人力ボート全日本選手権大会」用である。